事例No.	1248
公表年度	R2
団体の属性	町村
団体名	青森県田子町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・副業・兼業活用

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

「環十和田湖Gateway 構想推進」事業

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(4) 青森県田子町

事業名：「環十和田湖 Gateway 構想推進」事業

取組の概要

田子町・鹿角市・二戸市の連携のもと、地域住民が「関係人口との関わりしろ」について共感し、継続的・主体的に行動できるよう、地域の重要な資源である「食」をテーマとしたプログラムを創出するワークショップや交流イベントを実施。

主な成果

地域の魅力と課題の掘り起こしが進み、地域の案内人や関係人口の意欲と意識が向上。地域内で事業を立ち上げた者や、地域の担い手としての働き方を模索する者が出現。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・人口の減少が止まらず超高齢化が急速に進むこの地域の状況を考えると、町単体で地域活性化に取り組むことは限界がある。田子町では、2019 年度に２市１町の官民が連携する「環十和田湖 Gateway 構想」推進協議会を設置し、地域課題に取り組んできた。

・本事業においては、同協議会で積み上げてきた中間支援機能を活かし、関係人口と地域が関わり合いながら地域活性化に貢献できる仕組みの構築を目指して、関係人口と地域との継続的な協働事業の創出に取り組む。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・関係人口との協働による地域住民の意識変革を誘発できてこそ、地域住民の力で様々な地域課題を解決する基盤を創ることができる。農水省事業を活用したハード面の整備に加え、本事業を活用した広域での「関係人口の受け皿づくり」が進むことで、３県にまたがるこの地域の関係人口との関わり力が高まる。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

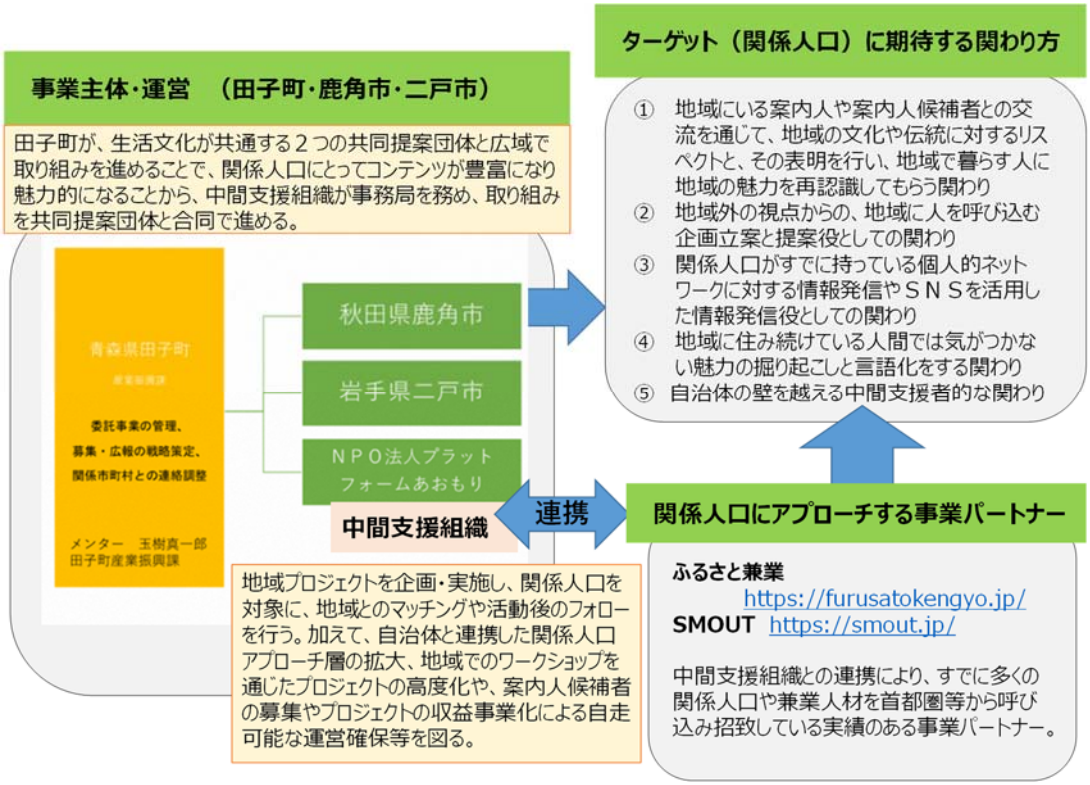
・田子町では令和元年度に農水省農泊推進事業を活用し、町内に点在する民俗資料館や古民家などの遊休施設を活用した滞在・周遊型拠点の整備を行うとともに、岩手県二戸市・秋田県鹿角市など、環十和田湖地域の市町村や DMO 等と連携した交流プロモーションに取り組み、関係人口の誘致に取り組んできた。

4) 今年度事業の目標

目標	①環十和田湖 Gateway の魅力あるテーマ「食」について、地域内の案内人と関係人口が交流するプログラムの開催　計３回　参加定員＝各回 30 人 ②地域案内人のスキルアップワークショップ　の開催　計３回 など
成果指標	目標設定項目①②の実施、参加者の満足度
目標値 （基準値）	参加者の満足度 80%以上（基準値：０件（2019 年度））

②事業実施体制

区分	団体・組織名称	役割
行政	青森県田子町	関係者間の連絡調整
行政	秋田県鹿角市	事業運営サポート
行政	岩手県二戸市	事業運営サポート
地元関連団体	地域の案内人８人	交流イベントの企画運営
中間支援	南部どき、まちなかキャンパス	地域の案内人の伴走支援、プログラム作成サポート
中間支援団体	NPO 法人プラットフォームあおもり	事業の企画・運営・調整、参加者募集
その他	SMOUT、ふるさと兼業	参加者の募集、情報発信



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
地域外からの交流イベント・ワークショップ参加者	SMOUT・ふるさと兼業サイトでの広報集客	外部視点の提供、 地域の誇りを見える化する触媒役

④事業スケジュール

時期	～7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画・準備等	連絡調整								
鹿角市での取組	企画会議	ワークショップ	募集	交流イベント					
田子町での取組			企画会議	ワークショップ	募集	交流イベント			
二戸市での取組					企画会議		ワークショップ	募集	交流イベント
成果報告									他事業と合同で開催





⑤取組の内容

【つい！関わってみたくなる地域をみんなでつくるプロジェクト】

目的と概要

・２市１町（田子町・鹿角市・二戸市）でのワークショップと交流イベントの開催を通じて、各地域の案内人と関係人口により、地域の実情を踏まえたプログラム構築ができる環境の創出を図る。

・地域の魅力ある食は、地域と「関係人口」がつながるきっかけの一つであり、また強力なコンテンツであることから、ワークショップでは、秋田県鹿角市・岩手県二戸市・青森県田子町が連携し、食×地域産業や、食×自然景観、地域の温泉などを組み合わせたプログラムをブラッシュアップし、地域に関わりたい「関係人口」と地域の関わりしろを創出する。

・さらに、ワークショップで企画したプログラムを交流イベントとして、各市町で実施。

実施概要

第１回ワークショップ（７月 18 日。鹿角市にて開催。24 名参加）	「関係人口」成功事例・失敗事例や、「つい、関わりたくなるしかけのつくりかた」に関して、外部講師を招聘してワークショップを実施。
第１回交流イベント（９月 26,27 日。鹿角市にて開催。９名参加）	大湯ストーンサークル館で縄文文化や古代の食を学び、鹿角の郷土料理や縄文料理を味わうなど、鹿角市の食を通じた交流を実施。
第２回ワークショップ（10 月 18 日。田子町にて開催。24 名参加）	鹿角市でのワークショップや交流イベントの振り返りを踏まえて、田子町の「つい、関わりたくなるしかけ」を企画
第２回交流イベント（11 月 21,22 日。田子町にて開催。16 名参加）	田子町内での散策や、田子町の特産品である、田子牛やたっこにんにくを味わうなど、田子町の食を通じた交流を実施。
第３回ワークショップ（１月 16 日。二戸市にて開催。32 名参加）	鹿角市と田子町でのワークショップや交流イベントの振り返りを踏まえて、二戸市の「つい、関わりたくなるしかけ」を企画
第３回交流イベント（２月６，７日。二戸市にて開催。50 名参加）	二戸市内での散策や、南部せんべい工場の見学など、二戸市の食を通じた交流を実施。

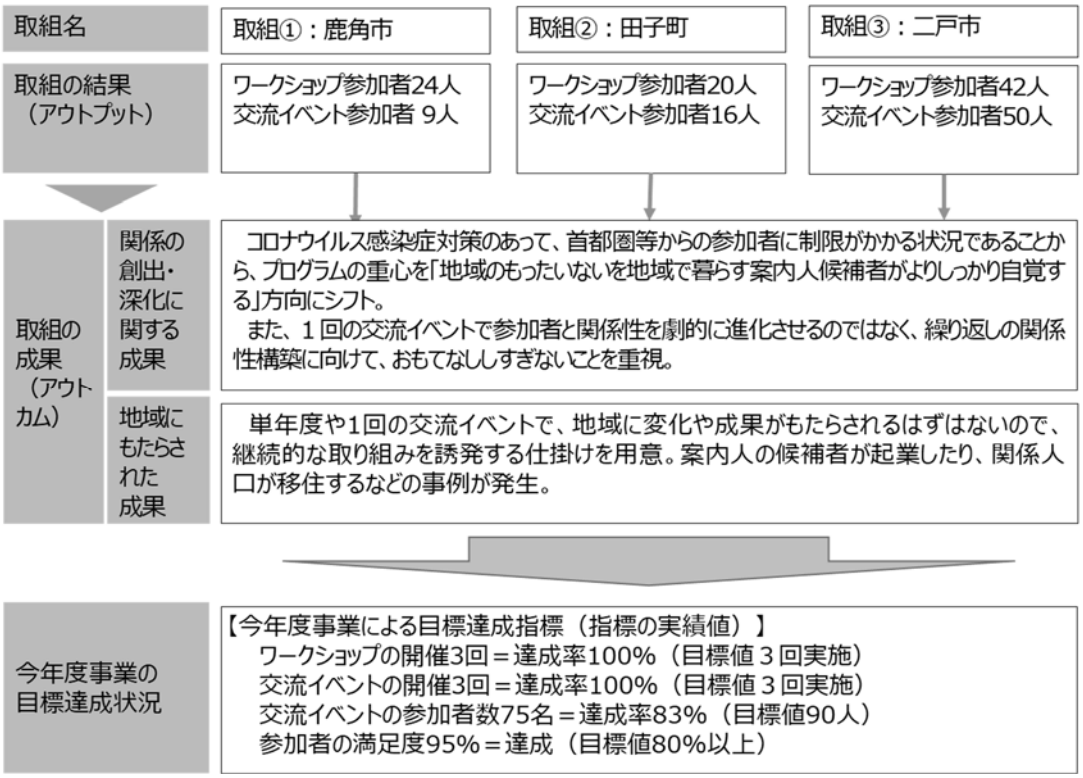






⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス



2) 本事業全体を通じた成果

・関係人口事業の成果は、単年度で目に見える形で現れることはあり得ないので、地域に根を張って暮らしている人々が、「関係人口との関わりしろ」について共感し、継続的に主体的に行動してもらえるように働きかけを続けることがとても重要だと考える。その意味では、コロナ禍の状況で対外的な発信や集客に制約が出た環境は、地域で暮らす人達が、自分の地域を見直し、地域と周辺市町村との関係を捉えなおす機会となった。

・関係人口獲得の取組は、本事業終了後も年度を越えて継続するが、本事業を通じて地域の魅力と課題の掘り起こしが進んだことで、地域の案内人役を務めた方たちや関係人口の意欲と意識が向上し、以下の動きがみられている。

①使われていなかった施設の活用について、地域企業から田子町に活用方法の働きかけ

②地域の担い手として田子町で働き方を模索する女性や、地域内で新規事業を立ち上げる個人事業主の出現

③韓国語で田子町やたっこにんにくの魅力を発信するユーチューバーとのつながりの構築

④二戸で案内人を務めたカーリング協会において、関係人口獲得の取組強化を模索

⑤広域交流による、関係人口同士のつながりの構築

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・長期的に現れるであろう事業成果を、単年度の成果として表現する必要があることは、大きな課題。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・本来、関係人口創出の推進力となるべき中間支援組織や地域の案内人を中核に据える実施体制を取ることが難しい。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・今年度は、コロナウイルス感染症対策が重視されたため、本来ターゲットとしたい首都圏等の在住者などの人材層に対してのアプローチを積極的に行うことができなかった（応募があっても断らざるを得なかった）が、SMOUT やふるさと兼業の活用は効果的であった。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・今回は２市１町にまたがる広域での取組であったため、それぞれの地域の事情や地域資源に大きな差があることを考慮する必要があった。ただ、広域の共通課題を相互認識し、同じ事務局が事業運営をコントロールすることで、事業成果は大きくなることが確信できた。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・総務省事業は終了するとのことなので、構築したネットワークを活用し、農水省事業等も活用しながら展開していく。

2) 地域における関係人口への期待について

・関係人口に対する期待は、その前提となる地域の受け入れ力の向上が必要。中間支援組織と、地域で暮らす案内人と、地域社会と行政が一体となって、関係人口にどうかかわっていくかの合意形成やアクションが先。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・中間支援組織や地域コーディネーター的な人材を育成することが最重要。全国の地域コーディネーターが情報を共有し、学びあうためのプラットフォーム整備も急務。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・供給する側の人材は過剰気味でかなりハイスペックな傾向がますます強まっているため、地域の需要を整理し見える化する作業が必要。